

平成30年度 学校自己評価システムシート (県立大宮工業高等学校 全日制)

目指す学校像	人間性豊かな、地域産業を担う職業人の育成
重点目標	1 主体的に取り組む力を育て、学力向上を目指した授業改善を図る 2 自ら律する規律性を育て、自他を大切にできる心を育成する 3 物事を探求できる力を育て、望ましい勤労観、職業観を育成する 4 協働教育による開かれた学校づくりを推進する

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	8名
	生徒	4名
	事務局(教職員)	5名

※重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学校自己評価					学校関係者評価			
30年度目標					30年度評価(2月1日現在)			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	達成度	次年度への課題と改善策		
1	<p>【現状】成績不振者は減少している反面、主体的に行動し、自ら学ぶ力が身につけようとする生徒が少ない。</p> <p>【課題】学習意欲を引き出し、主体的・対話的な言語活動の伴う授業改善や、積極的に資格取得に取り組める環境が必要である。</p>	生徒の学ぶ意欲を引出すため、主体的な学習を促す	<p>①学力養成委員会と学年が連携し、生徒の実態に合わせた自主学習時間を設ける。</p> <p>②各教員が、「主体的で対話的な深い学び」への授業改善に向けた取り組みを実践し、教員研修会を実施する。</p> <p>③教科・学科における資格取得に向けた補習等の取り組みをより充実させる。</p>	<p>①生徒アンケートで、「自主学習することが習慣化している」が前年度(22%)より上昇したか</p> <p>②生徒アンケートで「授業に主体的、積極的に取り組んでいる」が前年度(65%)より上昇したか</p> <p>③生徒アンケートで「資格取得が充実している」が前年度(77%)より上昇したか</p>	<p>多くの教員が「主体的で対話的な深い学び」の授業を実践し、また資格取得や授業の補習等を充実させたことで、生徒が主体的に学習する姿勢が表れ始めている。</p> <p>①今年度は23%と昨年度とほぼ同じとなった。昨年度までのアンケートでは、朝学習も自主学習として扱っていたが今年度は分けて質問を行った。朝学習を積極的に取り組んでいる割合を見ると、1年生では6割近いが全体では4割ほどであった。</p> <p>②今年度は73%と上昇した。同時に「授業の内容が良くわかっていく」も72%(昨年度65%)となった。教員研修会では5人の教科担当者が実践発表を行った。職員アンケートより、88%の教員が主体的・対話的で学びを深める授業が行えたと回答した。</p> <p>③「資格取得の指導が充実している」は77%と横ばいであった。「資格取得に向けて積極的に取り組んでいる」は51%と、半数の生徒に積極性が見られた。</p>	B	<p>①自主学習する生徒は少ない。引き続き朝学習を含め、継続した指導を行う。朝学習の取組状況は向上してきているが、半数に満たない。取組状況の結果をフィードバックするなどの検討を要する。</p> <p>②新学習指導要領に向けた取り組みが表れ始めている。「主体的で対話的な深い学び」の授業が実践されるよう、継続して研修会を開く必要がある。</p> <p>③年度初めに、学科別の資格一覧を作成し生徒へ配布した。今後は保護者向けの情報提供を工夫することで、受検者や合格数が増えるよう改善を図りたい。</p>	<p>・主体的に学ぶ姿勢が表れ始めている。さらに向上させるため学科単位などで検討してみてもどうか。</p> <p>・各学校行事の定義を明確化し、教員間及び生徒との共通理解を図る必要がある。</p> <p>・能動的な授業や調べ学習を多く取り入れる必要がある。また、小中学校での授業改善は進んでいるので参考にしてもよいのでは。</p> <p>・資格取得情報は消極的な生徒からは保護者へ伝わりにくいため、情報提供について工夫をお願いしたい。</p> <p>・自発的に家庭での自主学習が行える良い取組みとするためには、保護者の協力が必要である。</p>
2	<p>【現状】遅刻者数が減少傾向にあり、基本的な生活習慣の改善が図られつつある。しかし、社会におけるモラルの低下が本校にも影響し始めている。</p> <p>【課題】基本的な生活習慣と規範意識の更なる定着を一層図るため、教育活動全体をとおした指導を行うことが必要である。</p>	5S活動(整理、整頓、清掃、清潔、躰)を定着させ、規範意識を向上させる	<p>①生徒指導部と学年が連携し、遅刻指導を組織的に行う。</p> <p>②5S活動の定着を図るため、職員が機会を捉え、継続的な指導を行う。</p> <p>③生徒指導部通信を活用し規範意識や目的意識の醸成を図り、学校を誇りに思える生徒の育成を行う。</p> <p>④特別支援教育委員会を中心に生徒手帳を活用した自己管理能力の育成に努める。</p>	<p>①年間遅刻数が前年(903人)を下回ったか</p> <p>②生徒アンケートで5S活動に取り組めたとの回答が50%を超えたか。</p> <p>③生徒アンケートで、宮工を誇りに思えるとの回答が70%を超えたか。</p> <p>④生徒手帳の活用調査で、活用状況割合が50%を超えたか。</p>	<p>5S活動の取組を開始することができた。他の取組への理解度にばらつきが見られる。継続性が大切である。</p> <p>①12月末で昨年度の1.5倍の遅刻者数となった。</p> <p>一方、「時間の管理が出来ている」は80%という回答が得られた。</p> <p>②「宮工5S活動を実践できている」は54%となった。ルールやマナーが守られているかの質問は57%、校内はきれいに清掃されているかは69%となった。</p> <p>③今年度は67%となり、昨年度までの80%を大きく割り込んだ。保護者アンケートの「宮工へ入学させてよかった」は95%であった。</p> <p>④「活用している」は36%と改善が図れなかった。</p>	B	<p>①大半の生徒は、8:30登校を実践し朝学習等に取り組んでいる。5S週間などで教員が指導する機会を増やし、引き続き遅刻指導を学校全体で取り組む。</p> <p>②5S活動の定着は難しいが、企業などの実践例を参考に進めていきたい。</p> <p>③学校の取組状況や誇るべき実績などを生徒へ周知が出来ていないと考えられる。校内への広報活動も行う必要がある。</p> <p>④生徒手帳は、インクルーシブ教育の観点から、大きく作られているが、常時持ち歩けないとの指摘もあり、教員から生徒手帳を活用する丁寧な実践指導が必要である。</p>	<p>・多くの生徒は、身嗜みがしっかりとし挨拶もできると評判である。また、生徒の行動も良い。</p> <p>・5S活動について、企業などの専門家から講義を受けると理解が進む。5S活動での整理・整頓を徹底的に行うことや、エリアを決めて、活動前と後での変化を比べるなど工夫が必要である。</p> <p>・遅刻防止や5S活動などの取組みは、学校が押し付けるのではなく、生徒会から呼びかけてみてはどうか。</p> <p>・5S活動の方向性は良いので継続を願いたい。</p> <p>・遅刻常習者の遅刻原因が改善されなければ、遅刻数は減らない。</p>
3	<p>【現状】進学、就職の進路状況は充実しているが、計画力や行動力を持った生徒が少なくなってきた。</p> <p>【課題】社会性やコミュニケーション能力を身に付けた、人材育成を行うことが求められている。</p>	社会人基礎力を身に付けさせ、社会を牽引できる人材を育成する	<p>①各教科・学科と学年は、発信力や傾聴力を身につけさせる企画を実施する。</p> <p>②進路指導部、体験活動委員会が中心となり、インターンシップや進路ガイダンス、外部講師による講話などを実施する。</p> <p>③学習活動や部活動、学校行事をとおして、考え抜く力(課題発見力、計画力、創造力)を育成する意図的な教育活動へ取り組み、社会人としての素養を育てる。</p>	<p>①課題研究発表会やインターンシップ発表会などを計画的に実施できたか。-</p> <p>②進路実現に対する意識が強くなり、進路行事に積極的に参加する生徒の割合が70%を超えたか。</p> <p>③生徒アンケートで委員会活動や部活動、学校行事へ積極的に参加したかが50%を超えたか</p>	<p>社会人基礎力育成への観点から、行事等の充実を図り発信力、傾聴力を身に付けさせる活動が行えた。</p> <p>①課題研究発表会は各科ごとに1月に行った。またインターンシップ発表会は2学年及び体験活動委員会を中心となり3月に実施する。</p> <p>②生徒自身の進路行事への積極参加は高くはないが、3年生への質問で「自己の進路実現に満足している」は87%であった。また、「適切な進路指導が行われているか」は生徒、保護者の回答で共に80%以上となった。</p> <p>③委員会への積極参加は74%、学校行事は88%と共に高水準を維持している。</p>	B	<p>①今後も継続して行い、保護者や外部への公開を計画するなどの検討が必要である。</p> <p>②学校は進路ガイダンスなど学年に応じた行事は充実していると考えられるため継続したい。一方、生徒自身の積極性が乏しく、キャリア教育の観点から、生徒への内面的な指導が必要と考えられる。</p> <p>③本校生徒は、様々な活動へ積極的に参加している事が伺える。来年度以降も様々な機会を捉え、生徒が積極的に行動できるよう取り組む。</p>	<p>・進路状況は良好である。</p> <p>・これまで通りインターンシップを通じて、地元企業との交流を深め人材輩出を願いたい。</p> <p>・アンケート結果を見ると、1年、2年では14項目で下がっている。上がっているのは3項目(進路と資格、校訓)である。1年と2年において、細かく分析してみる必要がある。</p> <p>・社会人基礎力を具体的に生徒へ理解させる取組みが必要である。</p> <p>・社会に関する事例を生徒へ伝える機会が多くあってもよい。また、生徒の意見を活かした講演会も検討してみてもどうか。</p>
4	<p>【現状】地域、企業との連携による協働教育を進めている。一方、情報発信が少なく、本校の魅力を十分に伝えられていない。</p> <p>【課題】地域全体で人材を育成する協働教育を一層推進することで、地域、学校の双方が参画した開かれた学校づくりを推進する必要がある。</p>	地域へ学校理解を図る取組みを推進する	<p>①地域と連携した取り組み(チャレンジスクール、出前授業等)を実施し、地域社会とのつながりを深める。</p> <p>②各分掌、部活動等はホームページの更新や広報活動を積極的にを行い、学校の魅力を発信する。</p>	<p>①地域との連携を深める取り組みを年5回以上実施できたか。</p> <p>②学校説明会や学校行事等への来校者数が増加したか。</p>	<p>地域への取組は、例年並みに実践が出来た。校内外への広報の充実を図る必要がある。</p> <p>①小学校3校、中学校2校、児童センター及び公民館4カ所、他ものづくり技能フェスタ、北区文化まつりへ、ものづくり教室等の参加が行えた。</p> <p>②文化祭の来校者は2550人、学校説明会の参加者も昨年度比1.5倍となっている。</p>	B	<p>①限られた予算の中、例年に近い形で実施することができた。協働教育を進める上で、地域との取り組みは重要である。</p> <p>②HPの更新や広報活動は概ねできたようである。HPが見にくいとの意見も寄せられているため、今後も充実を図りたい。</p>	<p>・学校が行う様々な活動を通して、地域は学校を身近に感じられるため、今後も継続してお願いしたい。</p> <p>・限られた予算のなか、とても地域に貢献していただいている。可能であれば、ものづくり教室などの回数や種類が増えると良い。</p> <p>・良い人材を育てるため、地域の力も必要となってくる。</p> <p>・椅子などの寄贈は地域にとって大変ありがたかった。さらに、部活動などでも協働教育に関する活動があるとよいかもかもしれない。</p>